

プログラム名：社会リスクを低減する超ビッグデータプラットフォーム

PM名：原田 博司

プロジェクト名：ヘルスセキュリティ

委 託 研 究 開 発

実 施 状 況 報 告 書 (成 果)

平成 28 年度

研究開発課題名：

医療データの統合・解析による予測モデルの構築とリスクシミュレータの開発:経年的患者実態把握と保健医療支出シミュレータの開発

研究開発機関名：

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構

研究開発責任者

満武 巨裕

I 当該年度における計画と成果

1. 当該年度の担当研究開発課題の目標と計画

全国レセプトデータおよび保険者から独自に収集する特定健診、医療レセプト、介護レセプト等を用いることで、増え続ける日本の医療費を適正化するための施策としての市町村ごとのベンチマーク分析を行う。具体的には、平成 30 年より市町村国保の財政運営の責任主体が都道府県になることに伴うエビデンスの集積が求められていることから、リスク構造調整システムの導入の検討を前提とした分析を行うことで医療・介護費の支出目標の設定を検討する。

2. 当該年度の担当研究開発課題の進捗状況と成果

2-1 進捗状況

第一に、データ提供元（保険者）との合意に至った。第二に、ステークスホルダとして地域医師会への説明も行き、協力関係を構築した。予防・医療・介護の連携の実態把握は、三重県の国保と後期高齢者をフィールドに医療および介護レセプト情報を連結の確認を行った。各保険者のリスク構造等について分析を行った。具体的には、医療費データを用いて性別・年齢別の患者数調査、疾病有病率、時系列分析等を地域ごとに行い、特性を検討した。

2-2 成果

各地域の特性を分析するために、例えば、三重県の患者数および性別・年齢階層別積み上げマップ（図 1）、外来患者の季節変動（図 2）、地域別有病率（図 3）、各疾患の関連（図 4）、生活習慣病患者の経時的推移（図 5 及び図 6）などを作成して、各地域への情報提供と協議を行った。

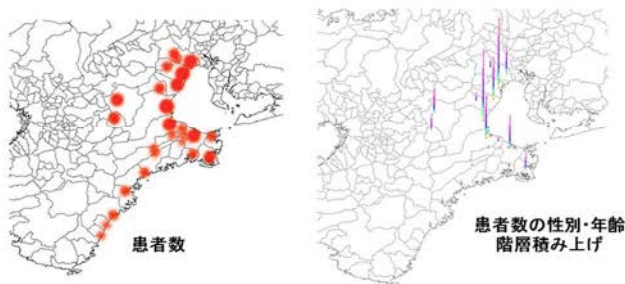


図1. 三重県の患者数および性別・年齢階層別積み上げマップ

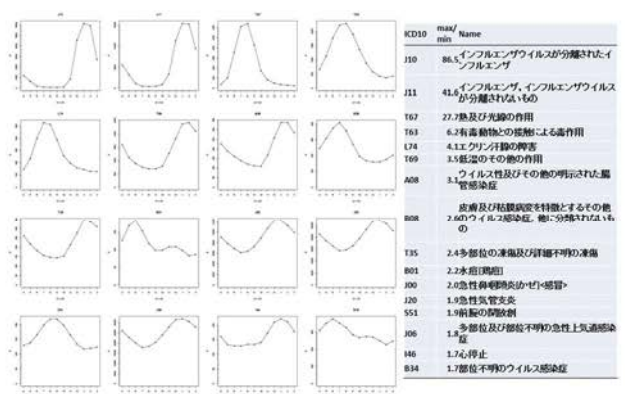


図2. 外来患者の季節変動

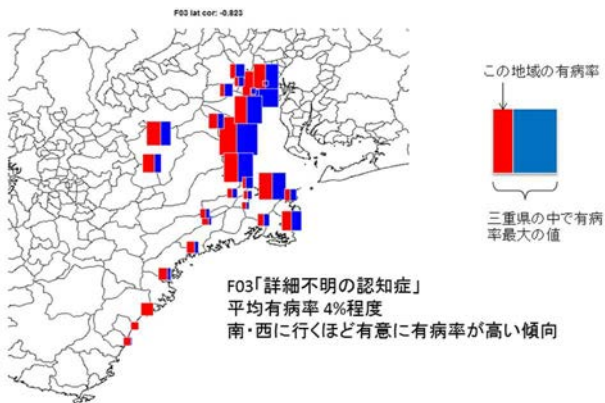


図3. 地域別の有病率(後期高齢医療制度)

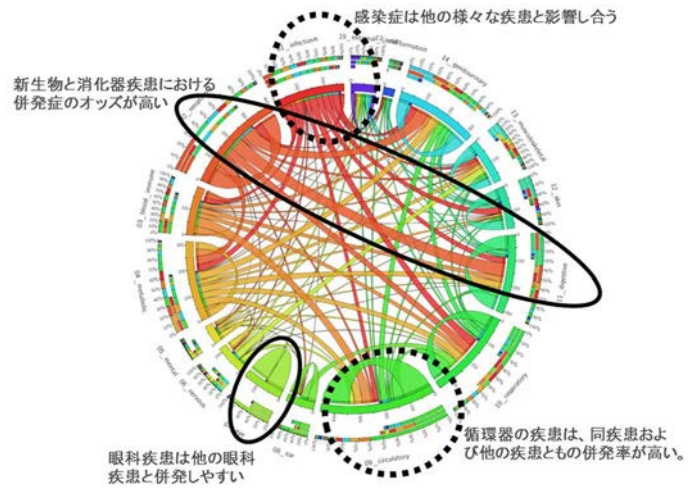


図4. 各疾病の関連(各疾患のオッズ比が1以上)

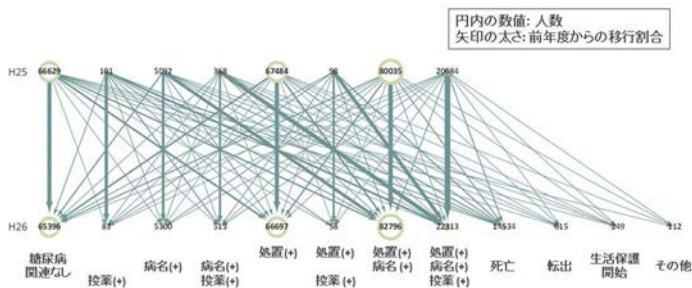


図5. 糖尿病患者の経時的推移(三重県後期高齢者、H25-26年度)



図6. 三重県後期高齢者データを利用した生活習慣病の時系列分析

2-3 新たな課題など

増え続ける日本の医療費を適正化するための施策として、都道府県ごとに医療支出目標を設定することが検討されていることを踏まえ、外来および入院医療費に影響を及ぼす因子（年齢・性別・併存疾患数等）、医療供給体制などの外部のセカンダリーデータを活用して地域毎の医療費の予測モデルを構築し、全国の都道府県および市町村へのデータ提供を行う。特に、外来と入院別に医療費に影響を及ぼす因子（年齢・性別・併存疾患数等）で調整したモデルを構築する。このモデルは、多変量直線回帰などより詳細なモデル作成する。同時に各セカンダリーデータ（需要データ（人口、健康状態、予防プログラム等）と供給データ（医療供給体制、医療費・介護費財源町タス方法等）も組み合わせてモデルを構築する。

3. アウトリーチ活動報告

特になし